

## パネル展「恩納村の鳥類」を開催します♪

恩納村博物館では5月10日～16日の「愛鳥週間」に合わせ、5月2日（火）よりパネル展「恩納村の鳥類」を開催いたします。

「愛鳥週間」とは、野鳥を保護し愛鳥思想を広く国民に普及するため、1947（昭和22）年に現在の公益財団法人 日本鳥類保護連盟によって4月10日に「バードデー」として定められたのを始まりとします。その後、1950（昭和25）年より現在のように、5月10～16日までの1週間が「愛鳥週間」として定められました。「バードウィーク」とも呼ばれます。野鳥の活動が活発になるこの時期に、野鳥を通してそれを取り巻く自然環境の保護の大切さを知り広めていくことを目的としており、日本全国で野鳥保護にちなんだシンポジウムや観察会、展示会などが行われています。

恩納村の鳥類に関しては平成26年に恩納村より発刊された『恩納村誌第1巻自然編』（以下、『恩納村誌』）や平成26年に当館が発行した『恩納村博物館紀要』第9号（以下、『紀要』）などでまとめた報告がされています。恩納村ではどれくらいの種類の鳥類が確認されているかみてみると、『恩納村誌』では原戸氏による報告で外来種も含め110種が報告され、『紀要』では高原氏などにより、過去の記録を含め148種の鳥類が報告されています。恩納村の特徴としては、『恩納村誌』の調査によって沖縄県のレッドデータで絶滅危惧Ⅱ類に分類されているカラスバト（国の天然記念物）、ミサゴ、アカアシギ、セイカタシギ、コアシサシ、オオコノハズクの6種が確認され、準絶滅危惧種についてはカイツブリなど19種が確認されています。また、名護市から連続する森林の重要性、安富祖地区の水田域ではシギやチドリなどの渡り鳥が多く確認されており、大切な中継地になっていることや海岸部の無人島や干潟、砂浜などが繁殖地として重要になっていることなどが指摘されています。

今回の展示会ではこれらの報告で撮影された鳥類の写真パネルを展示し、恩納村の鳥類やそれらが暮らす自然環境について知る機会にいただければと考えております。また、展示会期間中、鳥類のほか、万座毛のクモ類や恩納村のカメムシ類についての報告も掲載されている『紀要』9号の配布も行いますので、興味のある方はぜひ、ご来館ください。



オオコノハズク（原戸氏撮影）



カラスバト（原戸氏撮影）



コアシサシ（高原氏撮影）



セイカタシギ（高原氏撮影）



ミサゴ（原戸氏撮影）

### 《参考文献》

高原健二ほか 2016

「恩納村における鳥類の記録とその生息状況について」

『恩納村博物館紀要』第9号 恩納村博物館

原戸鉄二郎 2014

「恩納村の鳥類」『恩納村誌第1巻自然編』恩納村役場

開催期間：平成29年5月2日（火）～5月28日（日）

※5月8、9、10、11、15、22日は休館

会場：恩納村博物館2階展示ホール

開館時間：9時～17時（最終入館は16時30分まで）

観覧料：無料

主催：恩納村博物館